

I 調查概要

1. 調査目的

この調査は千葉県民の健康に係る生活習慣の現状を把握し、健康に関する課題を明らかにし、今後の健康づくり施策の推進等に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査項目

- | | |
|--------------------|-------------------|
| (1) あなたの健康について | (7) 歯について |
| (2) 栄養・食生活について | (8) がんについて |
| (3) 身体活動・運動について | (9) 健康診断について |
| (4) 休養・心の健康づくりについて | (10) 病気について |
| (5) たばこについて | (11) 健康に関する情報について |
| (6) お酒（アルコール）について | (12) 受動喫煙の防止について |

3. 調査対象

(1) 調査対象者

層化無作為により抽出した千葉県内在住の満15歳以上の男女6,000人(男性3,000人、女性3,000人)

(2) 対象抽出方法と対象地域・人数

県内を二次保健医療圏により9つに分類し、各地域内の健康福祉センター（保健所）を層として管轄する市から調査地域を選択した。調査地域の人口に応じて標本数を比例配分し、住民基本台帳を利用して調査地域から一定のサンプル抽出を行った。

対象地域と人数は下の表1に示す通りである。

(注) ここでいう市とは、平成25年11月1日現在の市制施行の地域をさす。

表1 調査対象地域と標本数

二次保健医療圏	健康福祉センター (保健所) 名	調査地域	標本数 (人)
千葉	千葉市	千葉市	1,050
		小 計	1,050
東葛南部	習志野	習志野市	180
		八千代市	220
		鎌ヶ谷市	120
	船橋市 市川	船橋市	680
		市川市	520
		浦安市	180
	小 計	1,900	
東葛北部	松戸	松戸市	540
		流山市	190
		我孫子市	150
	柏市 野田	柏市	440
		野田市	170
		小 計	1,490

(次ページへ続く)

二次保健医療圏	健康福祉センター (保健所) 名	調査地域	標本数 (人)
印旛	印旛	佐倉市	190
		印西市	100
白井市		70	
栄町		30	
小 計			390
香取海匝	香取	香取市	80
	海匝	多古町	30
		銚子市	80
小 計			190
山武長生夷隅	山武	東金市	70
		山武市	60
	長生	横芝光町	30
		茂原市	90
夷隅	長生村	30	
	いすみ市	50	
小 計			330
安房	安房	館山市	50
		南房総市	50
小 計			100
君津	君津	木更津市	140
		君津市	100
小 計			240
市原	市原	市原市	310
		小 計	

4. 調査方法

郵送法（郵送配付－郵送回収）

※無作為に抽出した県民に調査票を郵送し、同封した返信用封筒にて回収した。

5. 調査時点

平成25年11月1日（金）

6. 調査期日

調査票発送：平成25年10月23日（水） 回収期限：平成25年11月11日（月）

7. 報告書の見方

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数(n [number of caseの略])を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (3) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (4) 本調査のような標本調査の場合、標本誤差が存在する。そのため分析の軸(=表側)とした調査回答者の属性(性別、性・年齢別)のサンプル数が少ない(30人未満を目安)場合は、標本誤差が大きくなるため分析の対象からは除いている。
- (5) 本文中で比率の比較をする際には、ポイント(小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位で示している)と表記している。
- (6) 性・年齢別では参考として後期高齢者に該当する75~79歳、80歳以上の結果も図示しているが、歯の本数(問24)以外については、文中では述べないこととしている。
- (7) 健康保険種別については、回答のまま集計し、その結果を10ページ下部の図表に示したが、現行の後期高齢者医療制度は、満75歳に達した方全員がそれまで加入していた健康保険を脱退して加入する制度になっていることから、141ページ以降に示した健康保険種別のクロス集計では、75歳以上の方で「国民健康保険」と答えた107人、「健康保険組合」と答えた2人、「無回答」の5人を後期高齢者医療制度に含めて集計し直した結果を掲載した。

8. 標本誤差

本調査のように対象者(標本)を抽出して行う標本調査の場合、標本と全体の間には誤差が生じる。これは標本誤差(b)と呼ばれ、下式(等間隔抽出の場合)により求められる。なお、標本誤差を設問に対する回答者数(n)と回答比率(p)から簡単に求められるように早見表(表2)を用意した。

例えば、「問2 過去1ヵ月間に、体を使う日常活動(歩いたり階段を昇ったりなど)をすることが、身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。」について、「ぜんぜん妨げられなかった」という回答は、2,402人(n)中の58.1%(p)であるが、標本誤差は早見表により±2.0%程度であることが得られる。このことから、「問題はなく、普通に生活している」人は56.1%~60.1%の間にあると推測することができる。

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数

n = 比率算出の基数(設問の回答者数)

p = 回答率

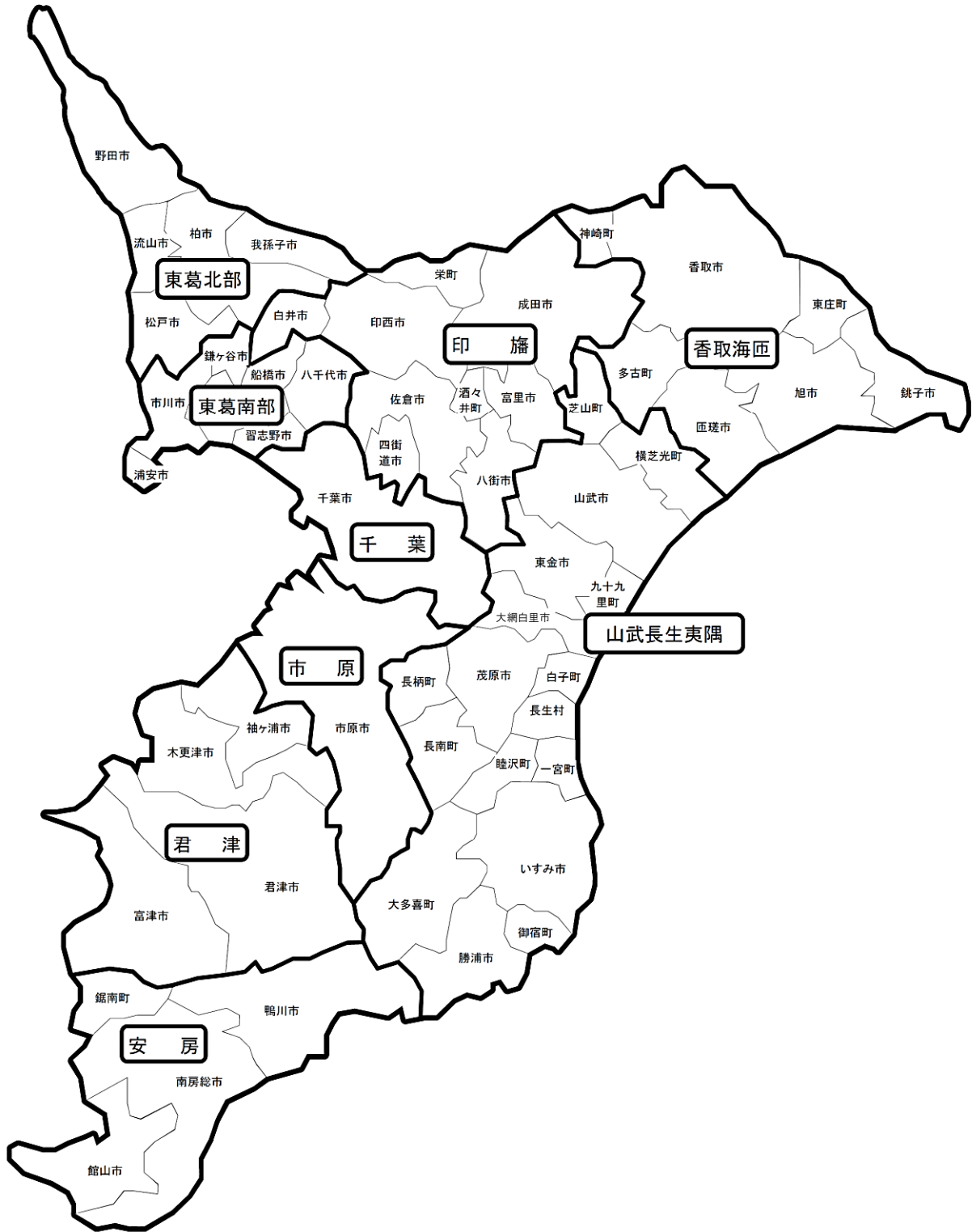
1.96=統計学の「正規分布表」から有意水準5%の定数(2として扱ってよい)

表2 標本誤差の早見表

回答の比率(p) 回答者数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
2,700	± 1.2%	± 1.5%	± 1.8%	± 1.9%	± 1.9%
2,600	± 1.2%	± 1.6%	± 1.8%	± 1.9%	± 2.0%
2,500	± 1.2%	± 1.6%	± 1.8%	± 2.0%	± 2.0%
2,400	± 1.2%	± 1.6%	± 1.9%	± 2.0%	± 2.0%
2,200	± 1.3%	± 1.7%	± 2.0%	± 2.1%	± 2.1%
2,000	± 1.3%	± 1.8%	± 2.0%	± 2.2%	± 2.2%
1,800	± 1.4%	± 1.9%	± 2.2%	± 2.3%	± 2.4%
1,600	± 1.5%	± 2.0%	± 2.3%	± 2.4%	± 2.5%
1,400	± 1.6%	± 2.1%	± 2.4%	± 2.6%	± 2.7%
1,200	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.9%
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
800	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.5%	± 3.5%
600	± 2.4%	± 3.3%	± 3.7%	± 4.0%	± 4.1%
500	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
400	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
300	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
200	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
100	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	±10.0%
50	± 8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

(注) $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ として算出した。

図1 千葉県の保健医療圏



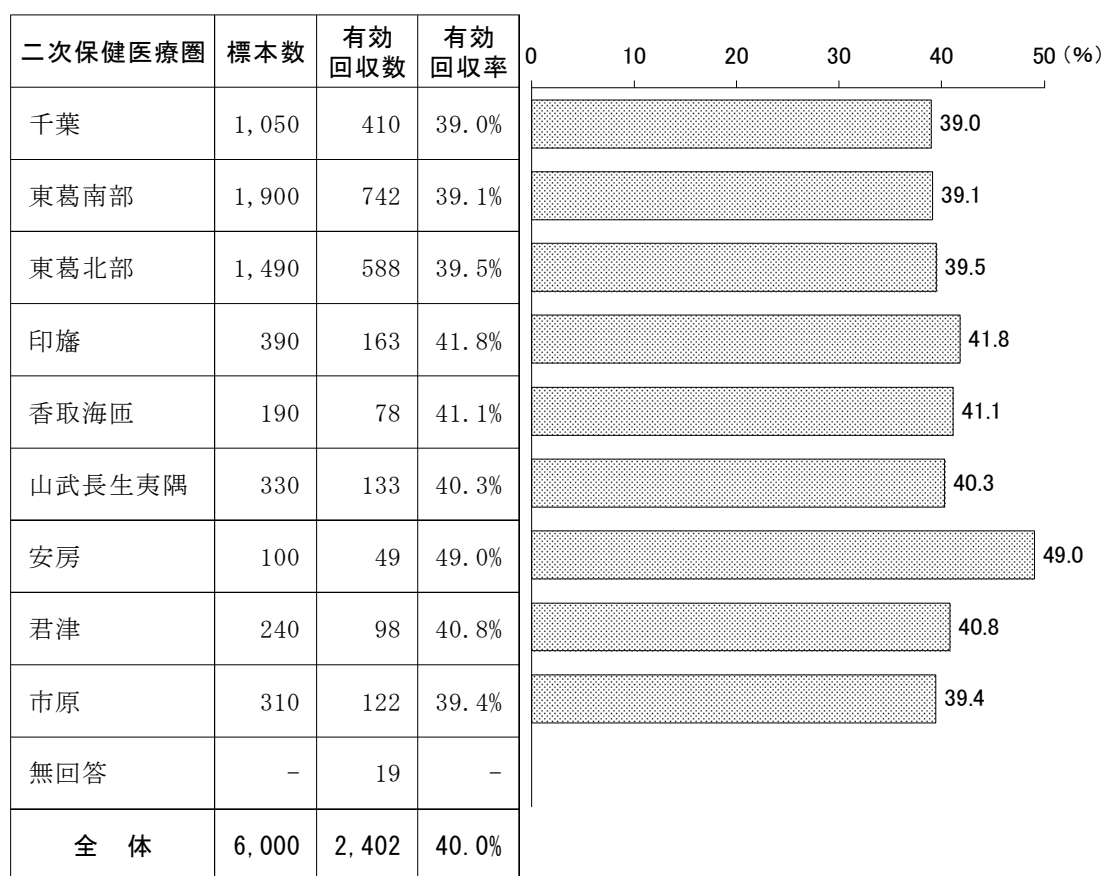
9. 回収状況

(1) 調査対象者数 6,000人

(2) 回収数 2,454人 (回収率: 40.9%)

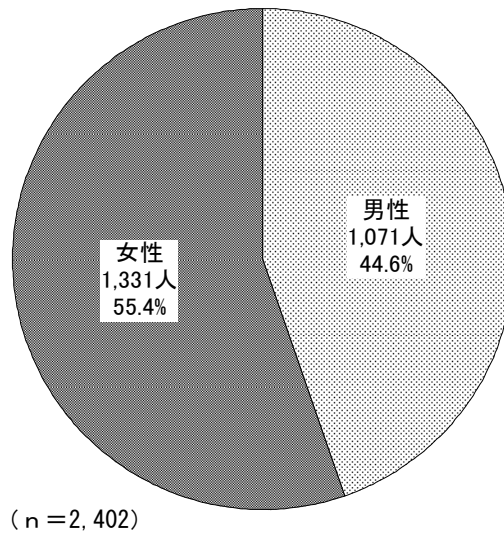
(3) 有効回収数 2,402人 (有効回収率: 40.0%)
(性別・年齢のいずれかが未記入のものは無効とした)

(4) 二次保健医療圏別の回収状況

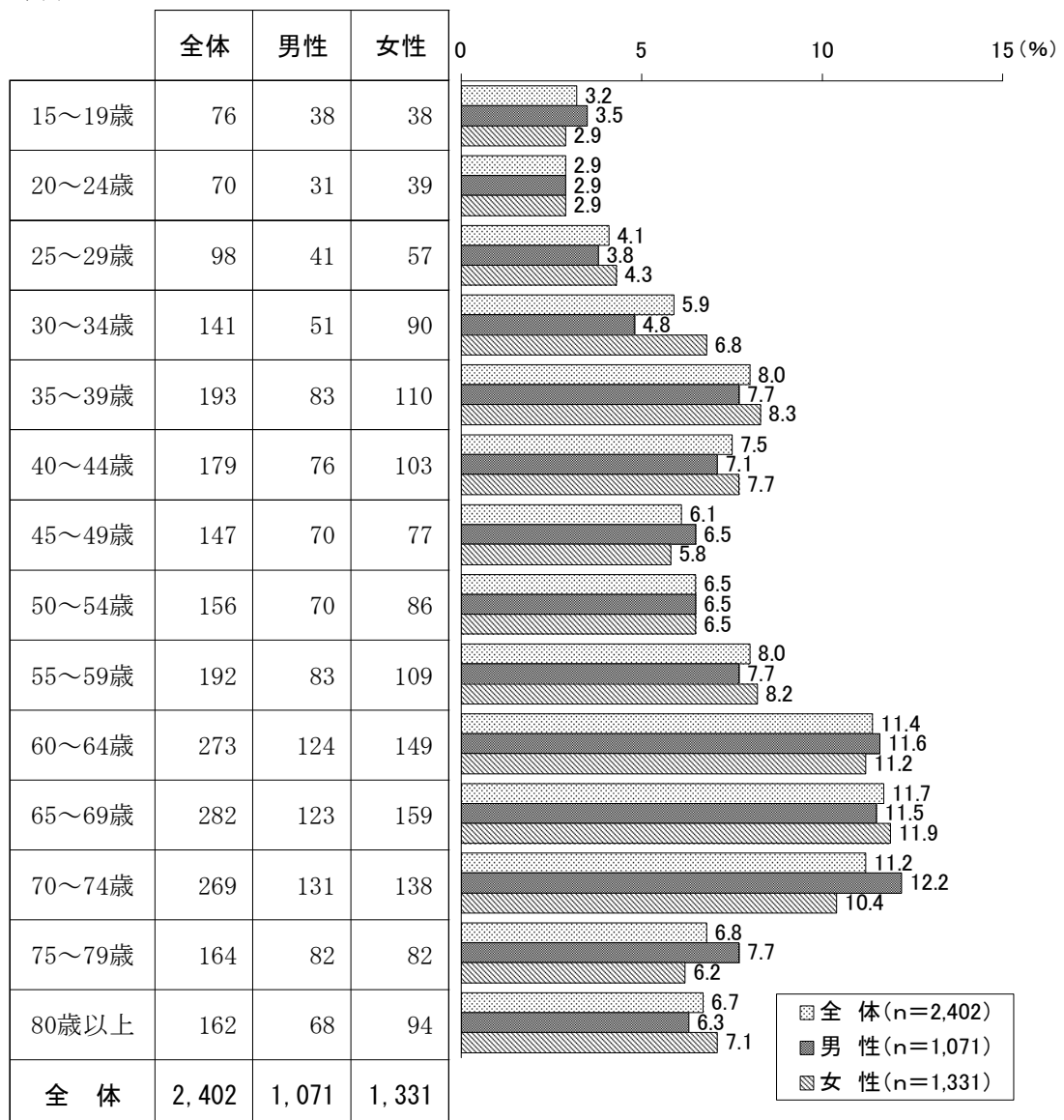


10. 調査回答者の属性

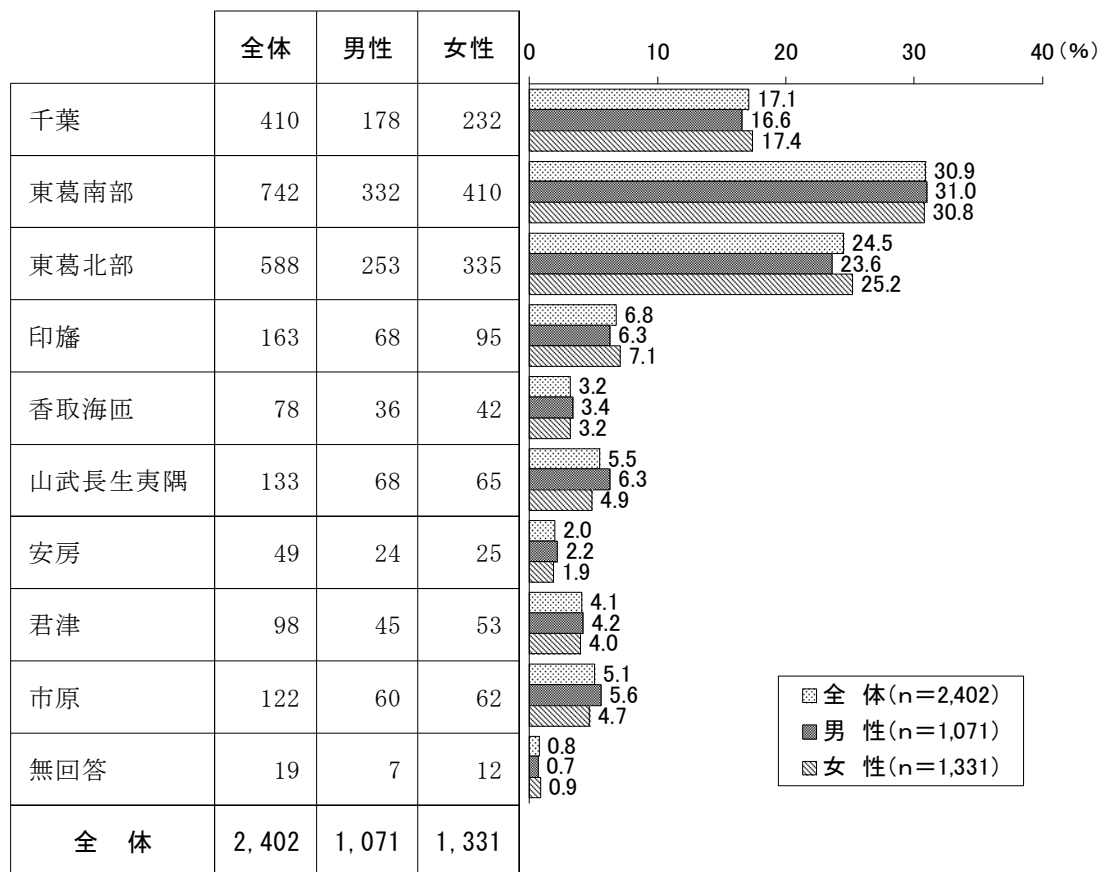
(1) 性別



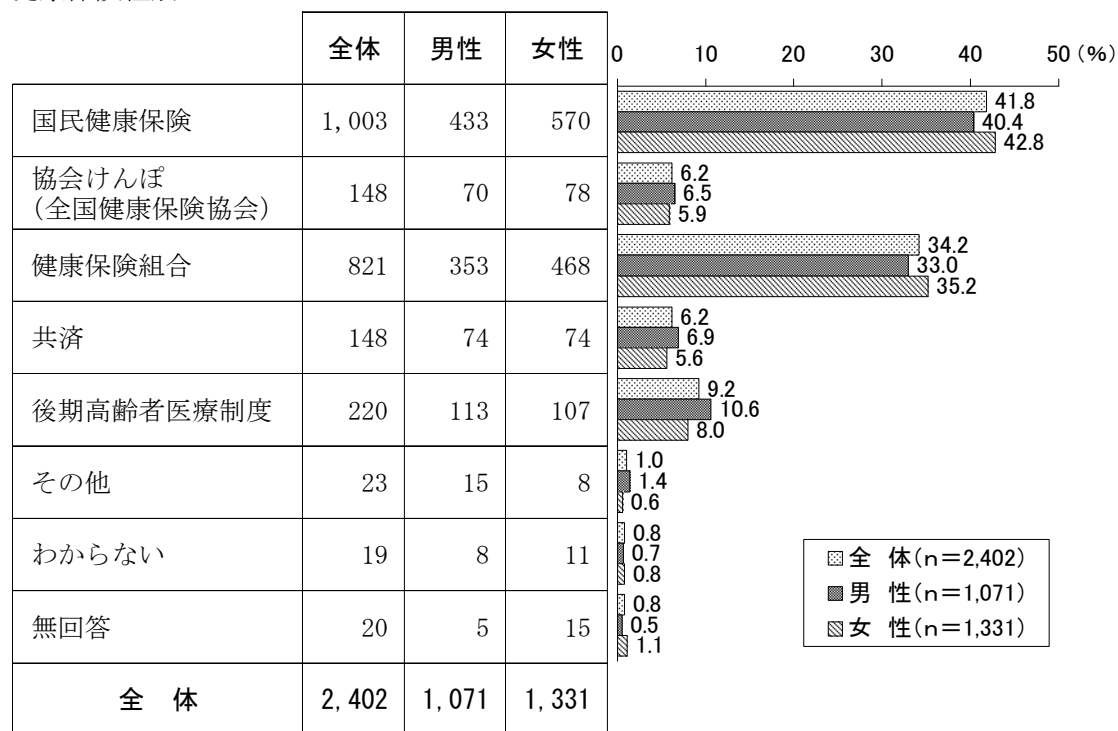
(2) 年齢



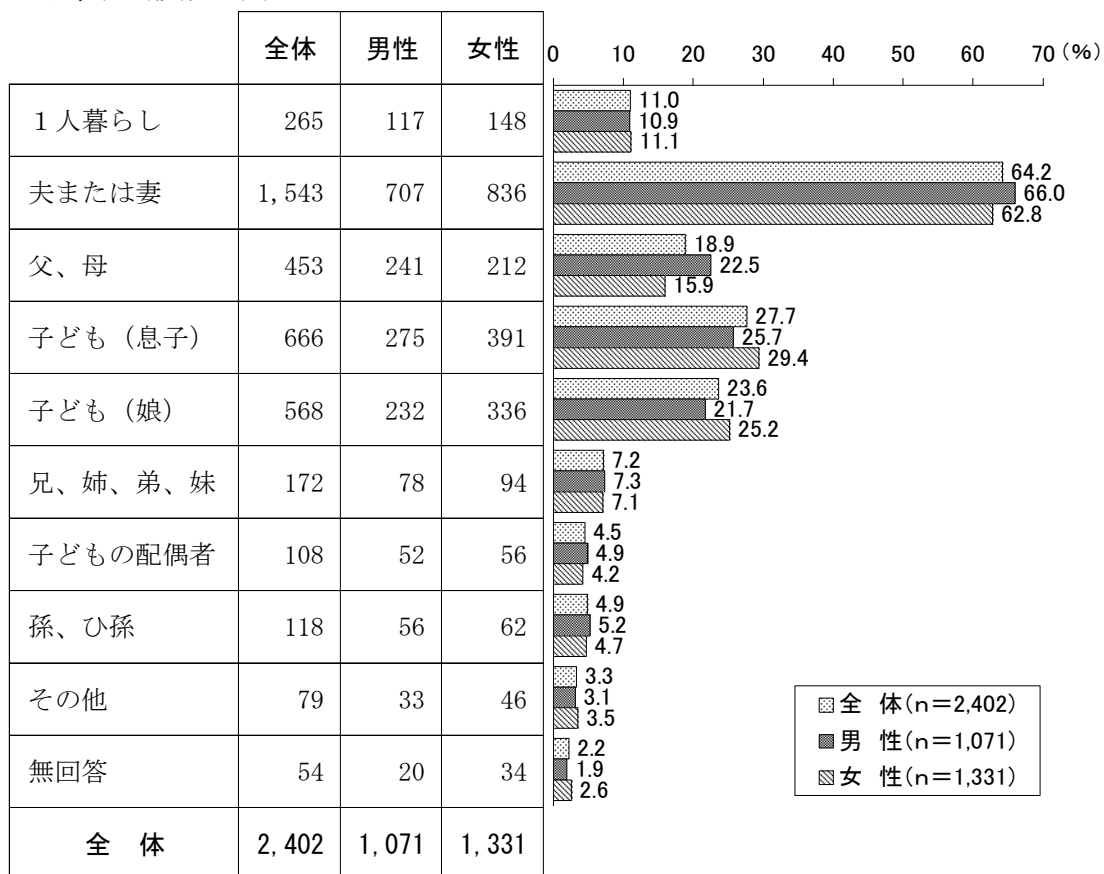
(3) 二次保健医療圏



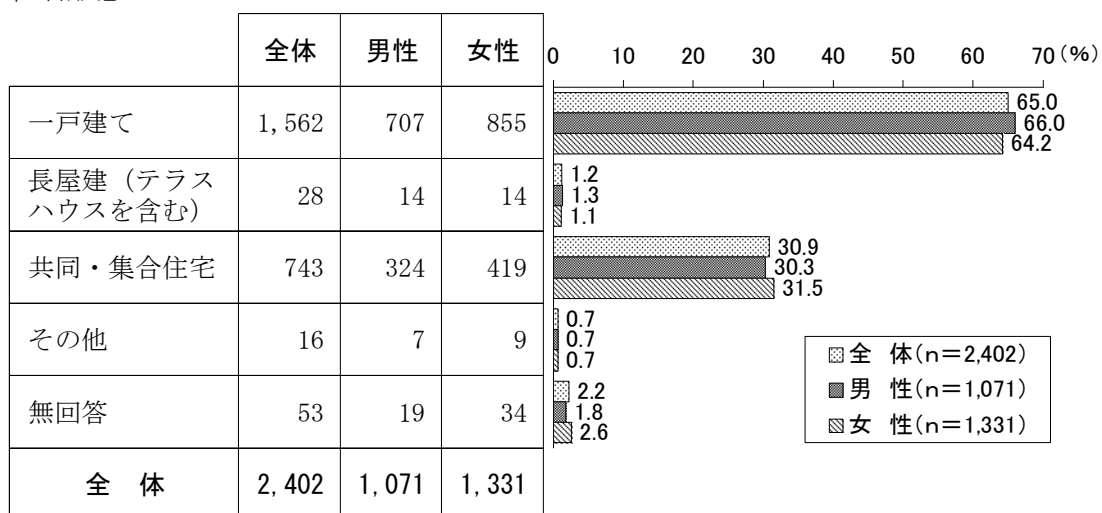
(4) 健康保険種別



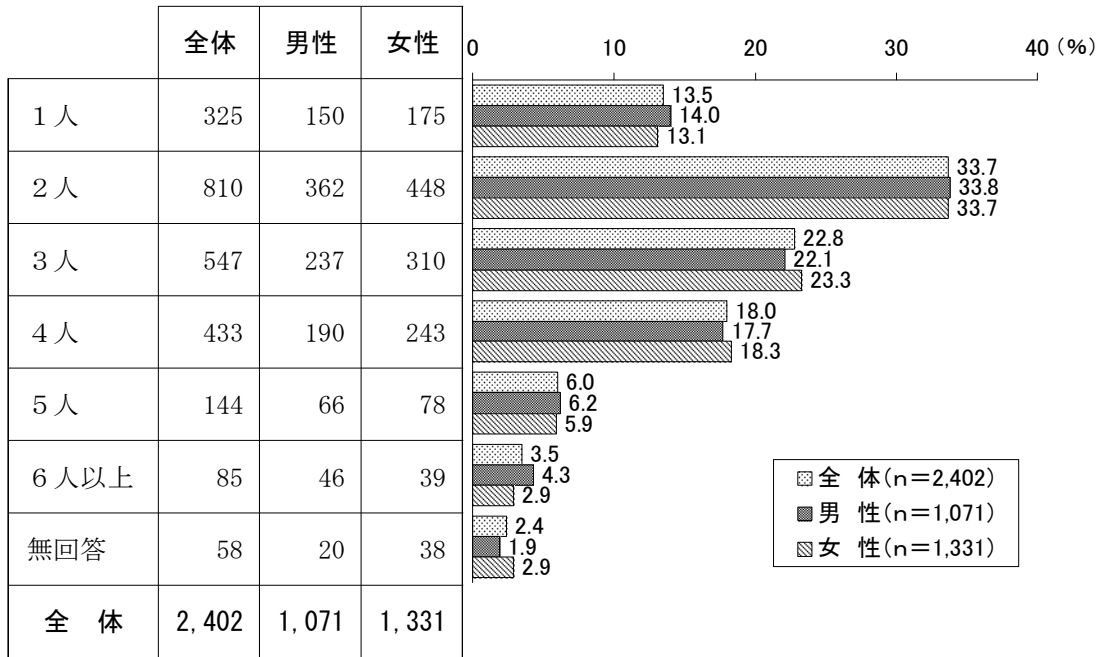
(5) 同居家族（複数回答）



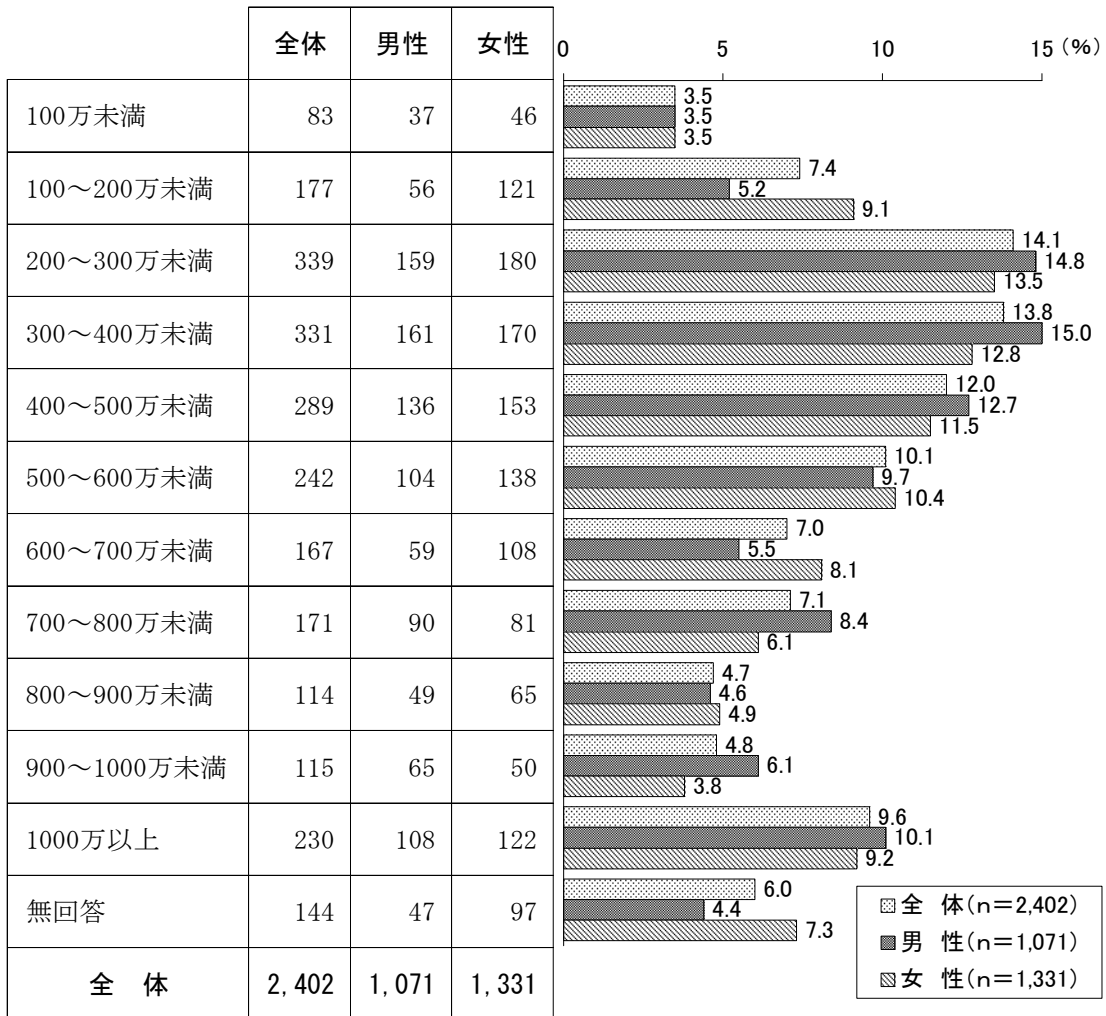
(6) 住居形態



(7) 世帯人数



(8) 世帯収入



(9) 学歴

